

令和4年度第1回 令和4年9月3日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

「杉並らしい子どもの居場所づくり」



区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めており、その取組の一つが、その時々行政課題をテーマに、区長と区民が直接意見交換をする対話集会の「聴くオフ・ミーティング」です。第1回は、「杉並らしい子どもの居場所づくり」をテーマに、一般公募及び無作為抽出した2,000名の中から参加していただいた20名が、それぞれの考える望ましい「子どもの居場所」について話し合いました。

■ 区長のあいさつ

今日は、第1回聴くオフ・ミーティングという記念すべき日に、大切な土曜日の午後の時間を使ってお越しいただき、本当にありがとうございます。7月11日の区長就任後、2カ月も経たないうちに皆さんのお話を聴く会を開催することができ、大変うれしく思います。私の公約の一つである「対話を真ん中にした区政」は、区民の皆さんとも、区役所の中でも、また議会との間でも中心となる、大切な価値観として掲げているものです。今日は皆様からのお話やご意見、そしてこの場から生まれる集合的な思いや考えを大切に、今後の区役所内外の議論にも生かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



■ プラザの視察と区の児童館等の取組を説明（児童青少年課長）

会場となった天沼区民集会所（ウェルファーム杉並内）の1階に併設されている「子ども・子育てプラザ天沼」を視察しました。

子ども・子育てプラザは、乳幼児親子同士の交流や遊びの場の提供、子育てに関する相談など子育て支援に係るサービス・事業を総合的・一体的に行う乳幼児親子の居場所として区が整備している施設です。

現在、5か所を開設し、今後は区内7地域に各2か所（計14か所）の整備を予定しています。



児童館や学童クラブ、子ども・子育てプラザ、放課後等居場所事業などの子どもの居場所を所管する児童青少年課長から、これまでの区の実践などについて説明を行いました。

■ 児童館の歴史

■ 児童館、学童クラブとは

■ 児童館再編の取組内容

- ・学校内学童クラブ
- ・放課後等居場所事業
- ・子ども・子育てプラザ
- ・中・高校生の新たな居場所

■ ファシリテーターのアドバイス

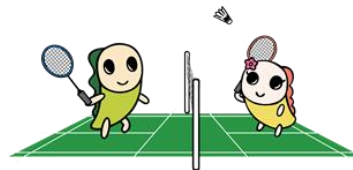
子ども・子育てプラザの施設を見て感じたこと。児童館や学童クラブ、放課後等居場所事業など、区の実施状況を聞いて思ったこと。グループトークそして全体トークを通して、参加者みなさんの率直な考えを意見交換しました。



◇◇ グループトーク ◇◇



□□ 全体トーク □□



■ 区長からの提起

皆さんのご意見の中で、私が印象に残ったキーワードは、一つ目が、杉並らしさの一つである緑の豊かさから、「緑のある居場所」、二つ目が、子ども・子育てプラザやコミュニティーふらっとなどの施設を、「地域からの関わりも考えながらどのように運営し良くしていくか」、三つ目が、「障害のある子ども達が学校以外でも皆と一緒に過ごせる場所」になります。このキーワードをもとに、あるいは自由に、皆さんのアイデアをお聞かせください。

■ 参加者の主な意見

●居場所は施設だけではなく、自然と出来上がっていくもので、公園や友達と遊ぶ中にもあると感じました。子どもを自由に遊ばせながら、親だけではなく近所の大人も、子どもが本当に危険な時には叱ることができるような環境作りが必要だと思います。

●施設の有効活用で、待機児童ワースト1をナンバー1にした杉並区の取組は評価できます。杉並の特徴である自然が多いところと施設をつなげることが課題だと感じます。



●学校に居づらい子は、放課後の居場所が学校にあるとつらいと思います。不登校の子は、家が居場所でもおかしくありません。学校にも家にも居づらい子に対して、学校でも家でもない、もう一つの場所、サードプレイスが必要だと思います。親にとって子どもを送り出せる場所は大事です。

●児童館の施設再編やいろいろな問題があり、財源があればやってもらいたいものばかりです。財源の捻出とやり繰り、そして令和の時代にあった施設の管理を検討していきたいです。

●小学校では既にタブレットやノートパソコンが一人一台配られて、デジタルネイティブの世代になっています。今の子どもがスマホなどで遊ぶ際に、昭和の形の児童館では居場所になりにくいと思います。

●財源もないので、ある程度は施設を統廃合して、売却益で新施設を作るような施設再編、スクラップアンドビルドをしてほしいです。

●子どもの居場所は、良い制度があるのに使えないことが問題で、必要な人に対して、提供できる人をつなげていくのが区の役割だと思います。

●子どもの居場所は屋内だけでなく、草原や水遊び場など屋外で自由に遊ぶことが出発点です。出発点をいろいろと考えると、設置に伴う財源も考えなくてはならないと思いました。

●夏休みの間、子どもが学童クラブに持参するお弁当作りが大変でした。親の有志の集まりで、たまに外注できるシステムを認めてもらい助かりました。親が大変な時は、子どもを助けると思って親も助けて欲しいです。

●子どもの居場所づくりにあたっては根幹・芯となる子ども条例の存在が大事で、子どものためのいろいろな提案も芯から発想すれば全部がつながっていくと思います。

●子どもの居場所で、障害のある子どもと一緒に過ごすために、バリアフリーのハード面とソフト面の両方を考えてほしいです。杉並区は全国で初めて障害のある子どもだけを集めた保育園を誘致しました。現在は医療行為の必要な子どもに対して、一部の区立保育園で預かってくれ、小学校でも希望する学校に通える体制が整いつつあります。杉並区らしさで誇れることです。

●子ども・子育てプラザ天沼では、職員がいろいろ声をかけてくれ、気にかけてもらえるのが嬉しいです。これからの施設は、子どもが通いたいと思う「子ども目線」での再編整備をお願いしたいと思います。



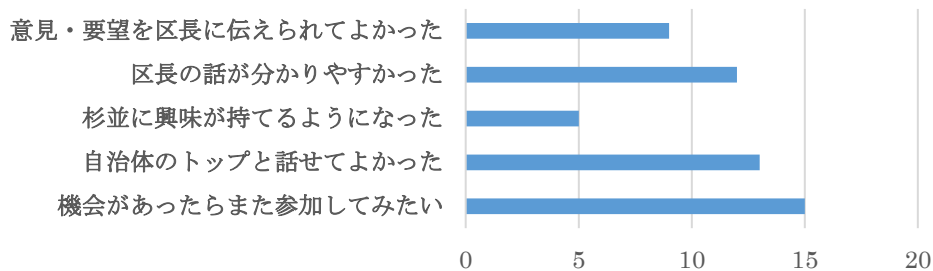
■ ミーティングを終えて～区長から

本日のミーティングでは、前半のグループトークの内容の反映や積み上げをもとに、全体トークでいくつかの新しい視点、気づきを得ることができました。例えば、子どもの権利のための条例を作ることは、私のやりたいことのひとつで、哲学や思想があつてこそ、政策や施策が生まれてくると思います。また、居場所に関してルールを決めたり、話し合いをする際に、子どもが参加することも検討したいです。現在コロナの影響もあつて管理教育が浸透しているため、子どもも大人も、管理することやされることに慣れてしまいがちですが、子どもが、自由に自分で決められることが、子どもの居場所づくりの原点となりますので、この点を重視していきたいです。

私自身は振り返りがたくさんあり、皆さんとの対話が心にしみ入りました。私だけでなく、区職員にも同じように浸透していますので、これを積み上げて反映していきたいです。本日は本当にありがとうございました。



参加者された方の感想 (人)



★子どもの居場所づくりを所管する「子ども家庭部」から

- ◇ 子どもたちの健やかな成長にとって、「居場所」の存在はとても大切です。
- ◇ 杉並区では、「子どもの居場所」の一翼を、児童館が長い間担ってきました。
- ◇ 社会状況が変化する中、一人ひとりの子どもの存在が認められるような多様な居場所づくりも求められています。
- ◇ 今回のミーティングでは、様々なアイデアやご意見をいただきました。
- ◇ 今後も、皆様の声を伺いながら、地域の中にどんな子どもたちの居場所を作っていくといいか、これまで進めてきた児童館再編整備のあり方なども含めて検討し、次代を担う子どもたちの未来のために、子どもの居場所づくりに取り組んでいきます。

令和4年度 第1回 聴くオフ・ミーティング報告書

- ・開催日 令和4年9月3日(土)
 - ・参加者 区民20名、区長、子ども家庭部長、児童青少年課長ほか
- 令和4年10月 編集・発行 総務部区政相談課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111